

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	1 年	2	選択
担当教員			
鈴木 耕太郎			
G (現代ビジネス学科)	L (基礎科目)	CS (地域)	102 (基礎・入門科目)

授業のねらい（概要）	ひとことで「地域」と言っても、都市部と都市近郊、ないし農村部では当然ですがそれぞれ違いがあります。「地域」を構成する共同体（ムラ）、あるいは家族（イエ）のあり方も、現在では多様化しつつあります。同様に「社会」もまた、さまざまな要素を含み、とらえどころのない概念となっています。 私たちの住む地域とは、私たちが生きる社会とは、何なのか。日本国内のさまざまな事例を踏まえ、学習していくことで、抽象的にも思える「地域」と「社会」とを相互に結びつけて理解することが、本講義のねらいになります。		
授業計画	第1回	イントロダクション・「地域」「社会」とは何か 受講上の注意／今後のスケジュール／評価方法などを確認します。 曖昧な概念でもある「地域」と「社会」について、具体的に説明します。 予習：自分にとっての「地域と社会」とは何か、考えてくる（30分） 復習：イントロダクションの確認ならびに「地域」「社会」の意味の確認（60分）	
	第2回	伝統的「イエ」と現代の「家族」 地域を構成する最小単位は集落＝ムラですが、そのムラを構成する最小単位は家族＝イエになります。ただ、近代化以降、イエのあり方は変化を遂げてきました。その経過を学びます。 予習：伝統的なイエとはいったいどのようなものか、調べたうえで現在の家族とどう違うかを考えてくる（60分） 復習：講義内容の確認と提示された参考文献の確認（60分）	
	第3回	「ムラ」が果たしてきた役割と限界 近代までの日本において、集落＝ムラは人々が生活を送る上での基盤でした。しかし、産業形態も変化し、価値観も多様化した現在においては、従来のムラを維持することは難しくなっています。歴史的背景を学びつつも、これからの共同体のあり方を考えていきます。 予習：ムラ社会の持つメリット・デメリットを調べてくる（60分） 復習：講義内容の確認と提示された参考文献の確認（60分）	
	第4回	結婚すること 現在、「結婚」は必ずしもしなければならないものではなくなりました。一方、伝統的なムラ社会においては新たな構成員を迎えるため、大きな意味を持ちました。この本質的な違いに目を向けつつ、そもそも結婚することとはどういうことかを考えていきます。 予習：自分にとって、「結婚」とはどのくらいの価値があるものか、改めて考えてくる（60分） 復習：講義内容の確認と提示された参考文献の確認（60分）	
	第5回	出産すること／育児すること 伝統的なムラ社会では、出産・育児はムラ全体の責任として考えられていました。一方、現在では出産・育児は夫婦（場合によってはどちらか）の責任として考える人が多くなっている傾向にあります。出産・育児の歴史的変遷を追いつつ、今後どのようにあるべきかを考えます。 予習：現在の社会で出産・育児することのやりやすさと大変さの両側面を考えてくる（60分） 復習：講義内容の確認と提示された参考文献の確認（60分）	
	第6回	成人儀礼のいま・むかし 民法が改正され、成人年齢が18歳に引き下げられることが決まっていま、改めて「成人」になることの意味が問われています。伝統的なムラ社会と現在の社会との間で大きく異なる、成人になる意義と、その通過儀礼のあり方について検討します。 予習：「成人」することの意義とは何であるのか、考えてくる（60分） 復習：講義内容の確認と提示された参考文献の確認（60分）	
	第7回	死者供養と地域社会 伝統的なムラ社会の中では、ムラの構成員・イエの構成員が亡くなるということは、大きな損失と考えられてきました。だからこそ、死者供養はムラ総出で行われてきた歴史があります。死者を弔うことと地域社会とのつながりについて迫ります。 予習：通夜・葬式の一連の儀式にはどのような意味があるのか、調べてくる（60分） 復習：講義内容の確認と提示された参考文献の確認（60分） 1. 非経済組織の果たす役割 2. 住民参加とは 3. 行政の支援	
	第8回	予習（時間）：住民主導とは何か調べておく。（120） 復習（時間）：住民参加の事例を考える。（120） 信仰の場としての「祭り」／まちおこしの場としての「まつり」 古来より「祭り」は地域の氏神などを祀る重要な場であり、人々が集う社会的空間でした。一方、近年は信仰を伴わない地域活性化イベントとしての「まつり」も根づいています。「祭り」と「まつり」、それぞれの役割と意義とを、地域と社会にかかわらせて検討していきます。 予習：信仰を伴わない「まつり」とは、どのようなものがあるのか。比較的、自分の身近なところ	

	ろから調べてくる (60分) 復習：講義内容の確認と提示された参考文献の確認 (60分) 近代化がもたらした光と影 熊本県水俣市はいわずとした水俣病の発生地です。この水俣病をはじめとする公害は、明治維新以降、日本が突き進んできた近代化・工業化の負の側面を象徴するものといえます。それらは地域社会を大きく変質させていきました。近代化がもたらす光、そして影に迫ります。 予習：水俣病の発生により水俣地域はどのように変質したのか、調べてくる (90分) 復習：講義内容の確認と提示された参考文献の確認 (60分) ムラの消失・都市の過密 1950年代から始まった日本の高度経済成長は、人々の暮らしを豊かにしました。しかし、地域からいえば、農漁村部からは若者がいなくなり、代わりに都市部は人口過密状態をつくり出した要因でもあります。ムラが消滅し、都市が過密したことで日本全体がどのように変わっていったかを学びます。 予習：高度経済成長はどのようにして起こったのか、調べてくる (60分) 復習：講義内容の確認と提示された参考文献の確認 (60分) 社会教育・生涯教育と地域社会 地域社会を形成する上で、そこに住む人々の「教育」も無視できません。特に、学校教育を終えた人を対象とする社会教育や生涯教育の概念は、より良い地域や社会を育む上で必要不可欠な要素となっています。それはなぜか、講義の中で明かしていきます。 予習：家庭教育・学校教育・社会教育のそれぞれの意義と役割について調べてくる (60分) 復習：講義内容の確認と提示された参考文献の確認 (60分) 社会教育施設としての博物館・美術館 第11回の講義を踏まえ、実際に社会教育施設として地域に根づいている博物館・美術館の役割と意義について学びます。また、近年登場しつつある地域社会の「核」ないし地域と人々をつなぐ「ハブ」としての役割までもも担っている博物館・美術館施設の事例を紹介します。 予習：自分の身近にある博物館・美術館施設が地域や社会とどう結びついているのか、調べてくる (60分) 復習：講義内容の確認と提示された参考文献の確認 (60分) 社会教育施設としての図書館・公民館 第11回の講義を踏まえ、実際に社会教育施設として地域に根づいている図書館・公民館の役割と意義について学びます。特に、図書館や公民館で行われている市民活動の事例を紹介しながら、こうした場から地域づくりが形となり発信されていくことを具体的に提示します。 予習：自分の身近にある図書館や公民館で、どのような市民活動が行われているかを調べてくる (60分) 復習：講義内容の確認と提示された参考文献の確認 (60分) グループ発表会 あらかじめ提示していた課題に関するグループ研究の発表会を行います。 ※なお、受講人数次第では、グループ発表会から、個人のレポート発表会へと変更します。 予習：発表会に向けた最終的な準備、役割分担を決めておく。発表会に向けて予行練習しておく。(120分) 復習：他のグループの発表内容で気になった点について、自分なりにさらに掘り下げて調べてみる (90分) 講義の総括 半期15回の講義を振り返り、「地域」と「社会」とのつながりについて総括します。 予習：これまでの講義内容を振り返り、自分なりに総括しておく (60分) 復習：今後、地域と社会はどうあるべきか、自分はそこにどう参加していくかを考える (90分)
授業を通して身に付けることができる能力 (DP)	「地域」と「社会」の中に私たちが生活していることの自覚が身につくだけでなく、過去と現在の地域・社会の変遷を知ること、客観的に「地域」と「社会」とが今後どう変わっていくかを予想できる力が身につきます。そして、そのように想定される未来をより良いものとするために、地域の構成員ないし社会の構成員として自分たちが何をすべきかを積極的に考え、提案する力も身につきます。
到達目標	①「地域」と「社会」とが密接に関係していること、そしてその中に自分も組み込まれていることを理解できるようになる。 ②「地域」「社会」が過去から現在に至るまでどのような変遷を経てきたのか、歴史的経緯・背景を知ること、より客観的に今後の「地域」「社会」がどうなるかを想定できるようになる。 ③想定される「地域」「社会」に対し、どうすればより良いものになるかを考え、実際に提案できるようになる。
課題や小テスト等のフィードバックの方法	毎回、講義開始から5分程度を用いて、前回講義の質問や疑問、受講生から寄せられた意見などについて補足説明を行います。小テスト実施の際は、次回講義で解答例を配布します。
履修上の注意	日頃から、自分たちの地域（現在住んでいる地域、地元）とはどのような場であるのか、どういった特徴があるのかなどを観察しておく、本講義の内容がより理解しやすくなるかと思います。 また、本講義では原則的に、毎回、講義終了15分前からリアクションペーパーを書いてもらいます（成績評価に関係します）。講義中に疑問に思ったことや感じたことなどは積極的にリアクションペーパーに記入してください。ただし、1～3回ほど、リアクションペーパーの代わりに小テストを行います（受講人数等により小テストを実施する回数は変化します）。小テストは事前予告なく実施するので、復習は必ずしておいてください。 なお、講義受講に際しては最低限のマナーを守ってください（受講態度が著しく悪いと判断した場合は、厳しく注意し、場合によっては退室をしてもらうこともあります）。
成績評価の方法・基準	講義内でのリアクションペーパーおよび小テスト（30%）、グループ発表（10%）※、期末考査（60%）により総合的に評価します。 ※なお受講人数によっては、グループ発表から小レポートに変更する場合があります。

教科書	特に指定しません。
参考書・教材	福田アジオ『知って役立つ民俗学』（ミネルヴァ書房、2015年） そのほか、各回の講義でそのつど提示します。
備考	受講人数によっては、講義内容を一部変更する可能性があります。その際は、事前に受講生の皆様にお知らせします。
教員との連絡方法	メールでの連絡をお願いします。